



福島県各地に、
全国から様々な形の応援が寄せられています！
そんな頼れる皆さんからのメッセージをお伝えします。

福島へのラブレター



横浜DeNAベイスターズ監督
しゃくなげ大使
中畑 清さん
(東京都在住)

福島県出身者として福島の皆さんの悲しみ、直面している困難をいつも自分のことのように感じています。昨年は、何度も被災地に入りボランティア活動を続けました。今も忘れられないのは、その度に私の方が励まされ元気づけられたことです。このたび、横浜DeNAベイスターズの監督に就任することになりました。これからは、球場で元気な姿をお見せしながら皆さんを応援し続けて行くつもりです。オフには必ず顔をせに福島に行きますので、皆さんもがんばってください。



福島テレビ元アナウンサー
原田 幸子さん
(石川県金沢市在住)

2011年3月11日。皆さんと共に、あの揺れを体験してから10カ月。私は今、大きなおなかを抱え、実家のある石川県金沢市で暮らしています。あの日以来、娘を実家に預けて福島と金沢を行き来して仕事を続けてきましたが、昨年6月に新しい命が宿りました。多くの人の命を引き継いだ、この命をこの世に送り出すことが、私の使命だと感じました。離れていても、福島のために出来ることはないか。日々、模索しています。「ふくしまが、好きなんです」。いつまでも。

リレーエッセイ

あきらめてはいけない!

神宮寺(長野県松本市)住職
高橋 卓志

1991年1月、ぼくは盟友の鎌田實(当時・諏訪中央病院院長)とチェルノブイリに旅立った。さまざまな情報や不思議な縁に導かれ、ぼくらはチェルノブイリ原発の風下にあたるベラルーシの汚染地域に入った。ベラルーシ第2の都市ゴメリから60km、チェルノブイリからは北へ170kmの距離にある小さな村、チェチェルスクは、事故からすでに4年が経過していたにもかかわらず、強度な汚染による混乱の中にあった。

医師を伴った外国の支援組織が、この片田舎に来たのは初めてだ、とぼくらは言われた。

ぼくらがそこで見たものは、村役場の壁一面に張られた汚染地図だった。市内が1メートル間隔で測定され、汚染度によって色分けされている精巧なものだ。その地の保健局や病院が、住民とともに計測したのだという。しかし、その地図をもとに、どのようにここで生活したらいいのかが、彼らには全く分からなかったのだ。除染の方法も定かでなく、除染用機材などまったく手に入らない。晩発的に発症する可能性のある甲状腺がんや血液疾患、肺がんなどについて、その治療法や薬剤、機材そして技術がまったくなかったからだ。途方に暮れていた人々の姿を、しかも必死で放射能と闘おうとしている彼らを見て、ぼくらはチェチェルスクに支援のターゲットを絞った。そしておよそ20年の歳月を、彼らとともに闘いの場に立った。見えない放射能との壮絶な戦いだった。

いま、チェチェルスクは小学校区ごとに食品検査システムが稼働している。また、子どもたちを中心に体内被曝線量をはかれるホールボディカウンターが常備されている。ぼくらが訪ねて以来20年。やっと放射能に対する人々の闘いが形になってあらわれてきたかのようだ。ぼくは、あの日訪れたチェチェルスクの混乱を福島に見る。そして福島のこれからの長い闘いの過程を、チェチェルスクでの闘いに見る。ぼくは20年前、タイムスリップしていた。だからいま、福島の20年後が見える。福島は、決してあきらめてはいけない。チェチェルスクとぼくらの20年が、放射能と五分五分に渡り合ってきたことを黙示しているからだ。

参加者募集!!

第15回 ふくしまボランティアフェスティバル ～住民力・地域力・がんばってます!ふくしま～

詳しくはコチラ ▶▶ <http://www.pref-f-svc.org/archives/4617>

2月に福島県でボランティアフェスティバルが開催されます。
3月11日に発生した東日本大震災により福島県内においても甚大な被害を受け、県内外から多くのボランティアの支援をいただきました。

震災から10カ月が経過した今、これまでの活動を振り返るとともに今後の復興へ向けた取り組みについて考えていきます。ともに寄り添い、ともに支えあう地域づくりを推進するために本フェスティバルを開催します。皆さまも奮ってご参加ください。

- 開催日時: 2012年**2月18日(土)** [式典・記念講演] 10:00~12:15
[シンポジウム] 13:15~15:15
- 会場: パルセいいざか
- 主催: 社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
- 共催: NHK福島放送局
- 後援: 福島県 福島県教育委員会 社会福祉法人福島県共同募金会
福島市 福島市教育委員会 社会福祉法人福島市社会福祉協議会
福島民報社 福島民友新聞社

- 参加費: 無料 ※どなたでも参加できます
- お申し込み方法: ウェブサイト <http://www.pref-f-svc.org/archives/4617> より「参加申込書」をダウンロードいただき、必要事項ご記入のうえ郵便またはFAXでお申し込みください。

[申込みメ切] 2012年**1月31日(火)**

お申し込み・問い合わせ先
社会福祉法人福島県社会福祉協議会 地域福祉課(生活復興ボランティアセンター)
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111 TEL 024-522-6540 FAX 024-522-6546

こんにちは、生活支援相談員です!

双葉町社会福祉協議会

双葉町は大きく福島市、郡山市、白河市、いわき市の4方部に分け各2名計8名で活動しています。12月は仮設住宅中心から借上げ住宅の訪問を始めましたが、知らない地域の中で訪問先を見つけるのは大変です。

社協事務局は埼玉県加須市にあり離れていますが密に連絡をとりあい、また月に2回生活支援員全員が顔合わせ情報交換を行っており、問題を一人で抱え込まないようにチームワークを心掛けています。

“笑顔で安心される避難者に寄り添った相談支援を”のスローガンで頑張ります。



写真後列左から 林利久、木村美子、芹川勝利、賀村恭子、吉田夕美子 写真前列左から 渡辺康男、高野陽子、新川安子、石川若子

編集後記

お正月、遠方の友人から届いた年賀状には、福島を気遣うあたたかい言葉があふれていました。その気持ちにこたえられるよう、自分なりに少しずつ歩んでいければ...と感じた年明けとなりました。(渡部智子)

最新情報はホームページで
ご覧ください!
<http://www.pref-f-svc.org>



がんばろう、福島。

次号は2月6日発行です。